

洲崎大神

宮前商店街をさらに進むと、洲崎大神に出ます。源頼朝が、安房国の安房神社の神をこの地に招いたのが、洲崎大神の始まりといえます。

昔、この神社にあった御神木のアハギがなまり、青木町の町名になったといわれています。『江戸名所図会』に描かれた雰囲気は、今も石鳥居や周囲の地形などに残っています。神社前の道を海側へ、第一京浜に出るあたりが舟着き場でした。かつて六月のお祭りには、みこしを神社前の海にかつぎ入れ、安房神社の神と対面させる「お浜下り」という神事が行われました。

宗興寺とヘボン博士

幸ヶ谷公園から幸ヶ谷小学校脇の坂道を下ると、『神奈川駅中図会』では権現山の麓に描かれている、宗興寺に出ます。

開港当時、アメリカ人宣教師で医者であったヘボン博士が、ここに施療所を開いていました。これを記念する石碑が境内に立てられています。

このヘボン博士は、「ヘボン式ローマ字」でよく知られ、日本で最初の和英辞典を完成し、聖書の翻訳なども行いました。後に、明治学院を創設するなど、わが国の教育にも尽くした人でした。



権現山

神奈川宿を描く絵図には、街道北側にひととき高い山が描かれていることが多く、その山を権現山といえます。

幕末に描かれた『神奈川権現山外国人遊覧』の図にも、外国人の背後にはこの山が見えています。しかし、今はもう、それらしき山はありません。幕末から明治にかけてこの山が削り取られ、その土が台場や鉄道用地の埋め立てに使われたのです。

現在、幸ヶ谷公園や幸ヶ谷小学校のある丘は、権現山の跡であり、本覚寺のある丘ともひと続きでした。

この権現山は、古戦場として知られています。戦国時代、関東管領上杉一門の

神奈川の大井戸

宗興寺の境内のすぐ脇には、「神奈川の大井戸」と呼ばれる井戸があります。

徳川将軍や明治天皇の通行の際、その水が使われたといわれています。

この水の量が増えると翌日の天気がよくなるといわれ、街道を通る旅人には、「お天気井戸」とも呼ばれていました。



「神奈川権現山外国人遊覧」横浜市歴史博物館所蔵

家臣でありながら、北条早雲に内通して主君に反旗を翻した上田蔵人の砦がこの山の上にあります。管領方二万の大軍が山上の上田方の砦を包囲し、十日にわたる戦いの後、ついに上田方の砦が落ちたとされています。